

**多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア  
整備・運営事業**

**審査講評**

令和6年6月

多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業審査委員会

多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業審査委員会（以下「審査委員会」という。）は、多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業（以下「本事業」という。）に関して、落札候補者決定基準（令和5年10月27日公表）に基づき、提案審査を行い、最優秀提案を選定しましたので、これまでの過程と結果を総括し、ここに審査講評として報告いたします。

令和6年6月25日

多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業審査委員会  
委員長 加藤 義人

## 1. 審査委員会の構成

審査委員会は次の9名により構成されています。

区分	氏名（敬称略）	所属・役職等
委員長	加藤 義人	岐阜大学客員教授
委員 (五十音順)	小野 悠	豊橋技術科学大学准教授
	金子 知永	豊橋市都市計画部長
	田中 久雄	豊橋市文化・スポーツ部長
	内藤 正和	愛知学院大学准教授
	長谷川 太一	EY 新日本有限責任監査法人
	原 仁志	弁護士法人関西法律特許事務所
	山肥田 徳文	愛知県スポーツ局スポーツ監 ※令和6年4月1日付け人事異動に伴い前任者石田邦洋から変更となりました。
	脇坂 圭一	静岡理工科大学教授

## 2. 審査委員会の審査経緯

- ・令和5年6月28日：第1回審査委員会  
(今後の進め方について)
- ・令和5年7月26日：第2回審査委員会  
(実施方針（素案）、要求水準書（素案）について)
- ・令和5年10月13日：第3回審査委員会  
(落札候補者決定基準について)
- ・令和6年4月17日：第4回審査委員会  
(提案審査の実施手順について)
- ・令和6年5月22日：第5回審査委員会  
(基礎審査確認結果報告、プレゼンテーション・ヒアリング、  
最優秀提案選定について)
- ・令和6年6月5日：第6回審査委員会  
(審査講評（案）の検討について)

### 3. 資格審査

市は、次のグループ（「表1 入札参加者（グループ）」）が提出した入札参加表明書及び入札参加資格確認申請書等を審査し、入札参加資格要件を満たしていることを確認しました。

表1 入札参加者（グループ）

グループ名	TOYOHASHI Next Park グループ
-------	--------------------------

### 4. 提案審査

#### (1) 基礎審査

##### ① 入札価格の確認

市は、入札に参加したグループの入札価格が、予定価格の範囲内であることを確認しました。

##### ② 基礎的事項の確認

市及び審査委員会は、入札に参加したグループの提案書類について、提出を求めている書類が全て揃っており指定した様式に必要な事項が記載されていること、市の要求する水準及び性能に適合していること等のほか、事業遂行能力を有した提案内容になっていることの確認を行い、適合との判定をしました。

#### (2) 総合評価

総合評価は、落札候補者決定基準に基づき、入札価格の評価が300点満点、性能等に関する評価が700点満点の合計1000点満点で評価しました。

##### ① 入札価格の評価（300点満点）

入札価格について、次の方法で評価し得点化（小数点以下第3位を四捨五入）した結果、「表2 入札価格の得点」のとおりでした。

入札価格の得点＝最低入札価格／入札価格×価格点 価格点の配点：300点
--

表2 入札価格の得点

グループ名	TOYOHASHI Next Park グループ
入札価格	23,069,999,700円
得点	300.00点

② 性能等に関する評価（700 点満点）

提案内容については、審査委員会が「表 3 性能等に関する評価の採点基準」に基づき審査項目ごとに A～E の 5 段階で評価し、評価に応じて得点化した結果、得点は「表 4 性能等に関する評価の得点」のとおりでした。

なお、得点化は、それぞれの委員の採点を平均し（小数点以下第 3 位を四捨五入）算出したものです。

表 3 性能等に関する評価の採点基準

評価	評価内容	採点基準
A	特に優れている	各項目の配点×1.00
B	AとCの間	各項目の配点×0.75
C	要求水準を満たすが、標準的な提案である	各項目の配点×0.50
D	CとEの間	各項目の配点×0.25
E	要求水準を満たすが、実現性に懸念が残る	各項目の配点×0.00

表 4 性能等に関する評価の得点

(単位：点)

審査項目	配点	TOYOHASHI Next Park グループ
<b>① 事業全般に係る事項</b>	<b>140</b>	<b>86.39</b>
1 取組方針	20	15.00
2 実施体制・分担	40	24.72
3 リスク管理	20	12.78
4 資金調達・収支	40	22.78
5 モニタリング	20	11.11
<b>② 設計・建設業務に係る事項</b>	<b>220</b>	<b>139.44</b>
1 全体計画	120	73.05
2 多目的屋内施設	70	48.89
3 その他公園施設	30	17.50
<b>③ 運營業務に係る事項</b>	<b>200</b>	<b>121.39</b>
1 運営計画	110	69.16
2 多目的屋内施設	80	46.67
3 その他	10	5.56
<b>④ 維持管理業務に係る事項</b>	<b>60</b>	<b>34.17</b>
1 維持管理計画	60	34.17
<b>⑤ その他に係る事項</b>	<b>80</b>	<b>47.78</b>
1 自主事業	70	41.95
2 その他	10	5.83
<b>合 計</b>	<b>700</b>	<b>429.17</b>

### ③ 審査結果

入札価格の得点と性能等に関する評価の得点との合計となる総合評価点は「表5 総合評価点」のとおりであり、スターツコーポレーション株式会社を代表企業とする応募者（TOYOHASHI Next Park グループ）の提案を最優秀提案に選定しました。最優秀提案者の概要は「表6 最優秀提案者の概要」のとおりです。

表5 総合評価点

グループ名	TOYOHASHI Next Park グループ
入札価格の得点	300.00 点
性能等に関する評価の得点	429.17 点
総合評価点	729.17 点

表6 最優秀提案者の概要

グループ名	代表企業	構成企業	協力企業
TOYOHASHI Next Park グループ	スターツコーポレーション株式会社	スターツ CAM 株式会社 スターツファシリティサービス株式会社 スターツ東海株式会社 前田建設工業株式会社 中部支店 前田道路株式会社 中部支店 エリアワン株式会社	株式会社梓設計 中部支社 大島造園土木株式会社 美津濃株式会社 中央コンサルタンツ株式会社 株式会社オノコム 藤城建設株式会社 豊橋建設工業株式会社 サンエイ株式会社 豊橋営業所

## 5. 審査講評

### (1) 各審査項目の講評

#### ① 事業全般に係る事項

審査項目	評価の視点	講評
1 取組方針	多目的屋内施設基本計画における整備・運営方針との整合、民間ノウハウを活かした意欲的な取組方針	スポーツや文化の振興、賑わい創出、公共負担の軽減といった整備・運営方針に合致した提案となっており、特に音楽興行のライブビューイングの開催やネーミングライツ料の収入により、民間事業者の独立採算での運営など意欲的な提案を高く評価した。
2 実施体制・分担	各企業の業務分担や SPC 内で責任分担や役割が明確で業務ごとの専門性を有した事業実施体制	他都市のアリーナ整備・運営に携わっている企業が含まれ、実績や専門性を有した実施体制の提案を評価した。
	様々な分野での地元企業の積極的な活用	建設業務において、地元企業を活用した提案があった。
	運営業務を見据えた適正な人員確保とバックアップ体制、市との連携・調整機能による信頼性の担保	SPC 内における部門ごとの職員配置や施設管理のバックアップ体制についての提案があった。

審査項目		評価の視点	講評
3	リスク管理	的確なリスク分析による具体的かつ効果的な対応策、リスク分担の整理、リスク顕在時の情報共有体制や指揮命令系統	一般的なリスク事象に対する検討がされており、一定程度のリスク顕在時の情報共有や指揮系統についての提案を評価した。
4	資金調達・収支	明確かつ実効性のある資金調達方法、市場の水準からの適正な金利想定及び対応策、SPCの倒産隔離の担保	借入部分について、プロジェクトファイナンスが組成されており、SPCの倒産隔離の担保がされている提案があった。
		正確な収入、初期投資、建設費用の積算による現実的な収支計画、資金不足に備えた対応策	収入の設定や建設費用の積算について、他都市の類似事例や関係者へのヒアリング、地元プロスポーツチームの利用の確認などに基づく収支計画の提案があった。
5	モニタリング	金融機関や第三者機関を含めた様々な視点によるモニタリング実施体制、本事業の着実な運用ができ、アップデートが期待できるモニタリング計画	金融機関や税理士、弁護士などによる多角的なモニタリング体制、PDCAサイクルを展開する仕組みについての提案があった。

## ② 設計・建設業務に係る事項

審査項目		評価の視点	講評
1	全体計画	【豊橋公園の景観デザイン計画・配置計画】 豊橋公園の既存文化施設や樹木を活かした景観デザイン、安全で回遊性のある誰もが訪れたいくなるような配置・動線計画	既存の樹木に配慮するなど景観の維持や公園内の回遊性を高めるとともに施設間の動線に配慮した施設配置、こども広場から多目的屋内施設のアプローチまでの一体的な広場の形成などの提案を評価した。
		【ユニバーサルデザイン計画（アクセシビリティ・利便性）】 障害者等の意見を適宜取り入れ、幅広い年齢層が障害の有無に関わらず利用しやすいユニバーサルデザイン・バリアフリー対応	障害者等の利用に配慮したアクセス計画や誰もが利用しやすい観戦・鑑賞を意識した施設計画の提案があった。
		【環境デザイン計画（材料・エネルギー）】 県産材の活用、カーボンニュートラルの実現を目指し、木質化や再生可能エネルギー設備の導入など、環境負荷低減への具体的な取組	軒天や天井に県産材を活用した計画のほか、太陽光発電設備の導入などの環境負荷低減への取組を評価した。
		【防災計画】 防災計画に配慮した施設配置、機能転換、動線、設備の充実を図る計画と関係機関との連携による災害対応の強化	多目的屋内施設、公園基盤施設ともに災害時における機能転換のイメージが明確で、避難経路や緊急車両の動線に配慮した施設計画を評価した。
		【施工計画】 既存公園施設の継続的な運営や関連業務を考慮しつつ、利用者の安全性を確保し、また遅延防止と早期開業が期待でき、周辺住環境にも配慮した工程・施工計画	検査や打合せなどへのICTツールの活用により、工事の効率性や生産性を高め、工事の遅延防止及び早期開業を図る提案があった。

審査項目		評価の視点	講評
2	多目的屋内施設	<b>【建築デザイン計画】</b> 多様なイベントに対応できるフロアサイズや観客席数・配置、ICT 技術の積極的な活用などによる質の高い観戦体験が可能なメインアリーナ、利用者のニーズに応えたその他諸室、利便性の高い配置・動線計画	市民大会からプロスポーツ、音楽興行など多様なイベントに対応可能なフロアサイズ、臨場感や一体感を創出するとともに搬出入の効率性が高いハイブリットオーバル型の観客席、大型ビジョンや次世代通信インフラの導入によるライブビューイングなど質の高い観戦・鑑賞体験といった利用者満足度の向上に配慮した提案を高く評価した。
		<b>【構造・設備計画】</b> 騒音・振動・光害など周辺住環境に配慮し、安全性（耐震や空気環境）の実現、メンテナンスの効率化を図れる構造・設備	施設の外壁や屋根に遮音性を持たせ騒音に配慮した構造とするほか、周辺地盤の調査を行い振動にも配慮した計画とするなど周辺住環境に配慮した提案を評価した。
3	その他公園施設	<b>【スポーツ以外の公園利用者にも配慮した計画】</b> 公園利用者に対する快適で魅力的な広場・遊具・休養施設等の配置・構造、スポーツ施設利用者（観客含む）に対する快適な施設配置・構造・設備	多目的広場での独立イベントへの配慮、興行車両と公園利用者が交錯しない動線計画の提案があった。

### ③ 運営業務に係る事項

審査項目		評価の視点	講評
1	運営計画	ICT を活用した駐車場管理、まちなか駐車場との連携、駅からの交通アクセスの工夫、柔軟な利用料金の設定等により適正に利用できる駐車場運用、公共交通機関の利用促進による交通負荷の低減策	予約システムの導入や入退場を円滑にするチケットレスなど ICT の活用による駐車場管理のほか、豊橋駅周辺の駐車場とのパークアンドライド割引、徒歩割引クーポンなど地域との連携方策の提案があった。
		関係団体と連携した持続可能な地域活動による効果的な公園の盛り上げと、イベント時のまちなかの賑わい創出に向けた具体的な取組	まちなか商店街と連携したイベントの実施など、まちなかの賑わいや回遊性を生み出す仕掛けづくりの提案があった。
		地域で開催されているスポーツとの連携やスポーツ体験教室・自主イベントによるスポーツ振興への取組	「きっかけづくり」から「定着化」までの各利用段階を想定した仕掛けづくりのほか、多様な教室・イベントの実施などスポーツ振興への具体的な計画を高く評価した。
		適切な交通誘導や緊急時マニュアルの作成等による利用者への安全管理及び関係者への情報伝達の整理と、障害者、多言語に対応した案内機能を備えた施設運営	緊急時対応や防災対応等に関する各種のマニュアルの作成、障害者や多言語に対応した案内機能などについて具体的な提案がされていることを評価した。



審査項目		評価の視点	講評
2	多目的屋内施設	一般利用者にとって快適な利用方法（予約・受付、システム、利用区分等）や低廉な料金設定など施設を積極的に活用できる促進策、柔軟な運営による「する」スポーツの振興	市民利用に配慮した料金設定とし、利用を促進させる提案があった。
		多様な媒体を活用した効果的な広報、魅力的な興行・イベントの開催、催事の誘致に向けた具体的な計画	愛知県新体育館をはじめとする他のアリーナ施設との相互連携による大型の音楽興行のライブビューイングなど、幅広い興行やイベントの提案があった。
3	その他	多目的屋内施設を中心とした運営面での独自性のある特筆すべき事項	愛知県新体育館の運営事業者との連携体制が敷かれており、その連携を活かした興行誘致など、独自性のある提案があった。

#### ④ 維持管理業務に係る事項

審査項目		評価の視点	講評
1	維持管理計画	統率の取れた実施体制、システムの導入などによる効率的・効果的な維持管理方針	各業務の担当企業や館長を中心として統率の取れた業務実施体制となっていることや、BEMSの導入により光熱水費の使用状況を可視化するなど効率的な維持管理が可能な計画が提案されていることを評価した。
		事故を未然に防ぐ点検、総合公園にふさわしい日常管理、施設の長寿命化に資する予防保全からなる維持管理の作業計画	豊橋公園西側エリアの施設管理者と連携し、植栽の種別特性や季節性を踏まえた植栽・外構管理計画の提案があった。
		緊急時（非常時・災害時）に備えた対応や早期復旧を目指した計画	非常時・緊急時における体制や災害時の業務フローなどについて提案があった。

#### ⑤ その他に係る事項

審査項目		評価の視点	講評
1	自主事業	イベント有無に関わらず、誰もが豊橋公園に訪れたいくなるような魅力向上に資する事業及び多目的屋内施設との相乗効果	地域の特色を活かしたイベントの実施や関係団体との連携方策など具体的な提案がされていることを評価した。
		利用者のホスピタリティの向上に資する様々なサービス及び広告収入・ネーミングライツ料を活かした多様なサービスの展開	民間ノウハウを最大限に活かし、ネーミングライツやスポンサー収入などにより豊橋公園の魅力や利用者のホスピタリティの向上に資する提案があった。
2	その他	その他事業者の提案により公園全体の魅力向上等に繋がる事項	防災、歴史などに関連したイベントの実施やスポーツチームとの連携など具体的な提案があった。

## (2) 総評

本事業は、PFI 法に基づく BOT 方式と BT+コンセッション方式の併用により、豊橋公園東側エリアを一体的に管理しながら、施設を最大限に活用したスポーツや文化の振興だけでなく、ホスピタリティ機能の充実、豊橋公園やまちなかの賑わいの創出を期待したほか、民間経営による収益性の向上により、市の財政負担の軽減にも期待した複雑な事業スキームでしたが、整備・運営方針に合った提案がされ、市が要求する水準を上回る内容でした。

特に、様々な立地条件がある中で、施設運営に関して、愛知県新体育館との連携による大型の音楽興行の誘致・ライブビューイングの開催による興行収入やネーミングライツ料収入などにより、市の維持管理・運営費の実際の支払いを発生させず、民間事業者の独立採算で行う事業スキームの提案など、BT+コンセッション方式の特色を活かし、民間ノウハウを最大限に活用した意欲的な提案をまとめられた応募者の提案力を審査委員会は高く評価するとともに、その熱意・努力に敬意を表します。

審査委員会は、落札候補者決定基準に基づき、厳正かつ公正に審査を行い、TOYOHASHI Next Park グループの提案を最優秀提案に選定しました。

TOYOHASHI Next Park グループは、提案内容を確実に実施し、より良い施設整備及び管理運営となるよう努めるとともに市が実施するモニタリングに積極的に協力すること、また、市は公共施設の管理者として、長期にわたり持続可能な施設運営となるようモニタリングを適切かつ確実に実施することを望みます。

## (3) 最優秀提案者に対する審査委員会からの要望事項

本事業をより良いものとするため、最優秀提案者に選定した応募者（TOYOHASHI Next Park グループ）に対し、審査委員会として次の点について適切な対応を要望します。

### <事業全般>

- 代表企業を中心として、人員面だけでなく、資金面におけるバックアップ体制も構築するなど、本事業を安定的かつ長期的に運営できるよう、適切なガバナンスを構築すること。
- 誰もが利用しやすく親しまれる施設とするため、全体スケジュールを鑑みながら、地元住民や関係団体との意見交換などを実施し、適宜計画への反映に努めること。

### <設計・建設>

- 多目的屋内施設については、壁面の高さや色彩に関してボリューム感の低減など景観に配慮したものとなるよう、市と十分に協議し進めること。
- 仮設・工程計画については、既存施設の利用ができない期間を最小限に抑えつつ、利用者の安全性に配慮したものとなるよう、市と十分に協議し進めること。

- 周辺環境への影響については、調査方法や対応策を市と十分に協議し進めること。
- 屋外照明計画については、ランドスケープを意識し、利用者が楽しむための演出の工夫など、照明器具の選定及び色温度等に配慮しながら進めること。
- 園路については、車両と利用者が交錯しないよう安全面に配慮しつつ、回遊性を持たせ楽しく歩けるほか、快適に走れるランニングコースになるよう努めること。
- 案内板などのサイン計画については、吉田城址に配慮したものとするほか、豊橋公園のこれまでの歴史や文化を示すものとなるよう、市と十分に協議し進めること。

#### <運営・維持管理>

- 興行やイベント時の駐車場の利用については、市と十分に協議したうえで、交通負荷のシミュレーションの実施などにより、周辺住環境やまちなかへの影響を検証し、様々な状況を想定した対策を図るなど適切な施設運営となるよう努めること。
- 多目的屋内施設を含む公園施設の運営については、利用者の安全安心の確保を第一とするとともに、日常的な賑わいの創出に向けて、広く市民や利用者の声を聴き、多目的屋内施設と他の公園施設の一体感が感じられるような運営上の工夫を図ること。
- まちなかの賑わい創出については、まちなかの関係者の声を聴き、まちなかのイベントとの相互連携も意識した運営の検討を進めること。
- ネーミングライツやスポンサー収入については、実現に取り組むとともに、豊橋公園の魅力向上や地域活性化に資する取組への還元を努めること。

最後に、本事業が、市のシンボルとして、市と最優秀提案者の良好なパートナーシップのもと、豊橋公園を核とした地域の活性化と持続的成長を実現していくことを、大いに期待する。

6. 提案概要 ※以下は提案概要であり、実際の整備内容とは異なる場合があります。

(1) 主な整備施設

施設名称		施設内容	
多目的屋内施設	建物規模・構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築面積：約 14,049 m<sup>2</sup> ・ 延べ面積：約 21,188 m<sup>2</sup></li> <li>・ 構造：鉄骨造 3 階建 ・ 最高の高さ：約 25m</li> </ul>	
	メインアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスケットコート 3 面利用可</li> <li>・ 観覧席数（固定席、可動席、移動席、立見席等含む） プロスポーツ開催時 5,073 席（バスケットコート中央 1 面） コンサート開催時 5,196 席（エンドステージの場合）</li> <li>・ V I P ルーム、ラウンジ</li> </ul>	
	サブアリーナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスケットコート 2 面利用可</li> <li>・ 観覧席数：208 席</li> </ul>	
	武道関係諸室	武道場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔道・剣道 6 面利用可</li> <li>・ 観覧席数：200 席</li> </ul>
		弓道・アーチェリー場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弓道（近的 12 人立、遠的 6 人立）、アーチェリー（50m）</li> </ul>
その他の諸室		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多目的室兼会議室、トレーニングルームなど</li> </ul>	
公園基盤施設	多目的広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規模：約 9,500 m<sup>2</sup></li> <li>・ スポーツや多様なイベントが開催可能な独立した広場</li> </ul>	
	こども広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規模：約 2,840 m<sup>2</sup></li> <li>・ 乳幼児用遊具、インクルーシブ遊具、シンボル性のある児童遊具</li> </ul>	
	芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規模：約 5,740 m<sup>2</sup></li> <li>・ 「集いの丘」（多目的屋内施設入口前の緩やかな斜面）と平地の広場</li> </ul>	
	園路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一部をランニングコースとしての利用可能</li> </ul>	
	テニスコート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軟式・硬式兼用の砂入り人工芝 16 面</li> <li>・ 観覧席（日除け機能あり）</li> </ul>	
	相撲場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 土俵 1 面（観覧席あり）</li> <li>・ テニス利用者用更衣室及び屋外トイレ併設（多目的ブース付）</li> </ul>	
	駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公園利用者用：約 100 台</li> </ul>	
	駐車場・ロータリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公園利用者用（分散配置）：約 400 台</li> </ul>	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外トイレ 2 棟（多目的ブース付）、管理用倉庫、休養施設、案内板（サイン）、公園照明灯、新樹植樹など</li> </ul>	

## (2) 主な提案概要

### ■実施体制・事業方針

○数多くの PPP/PFI 事業の代表企業としての実績を有する企業やコンセッション事業の豊富な経験を有する企業、全国で数多くのアリーナをはじめとするスポーツ施設の設計実績を有する企業など、業務ごとの専門性や強みを活かした事業実施体制を敷き、高機能アリーナと都市公園を核とした地域の活性化と持続的成長の実現を提案

○次世代通信インフラや大型ビジョンなど常設設備を充実させ、愛知県新体育館などと連携し、大型の興行誘致やライブビューイングなど多様な興行開催することにより、収入の最大化と運営コストの合理化を実現し、市の運営・維持管理費用の軽減策を提案

### ■全体計画・施設計画

○既存の樹木と野球場芝生席の起伏を活かした施設配置とし、公園環境を保全するとともに、公園内の回遊性や一体的な賑わいを創出する配置・動線を提案

○建物の外装は木立や手筒花火をイメージし、緑と空に映える豊橋らしい外観デザインとした「多目的屋内施設」を提案

- ・メインアリーナ・サブアリーナ・武道場など、利用用途の役割分担を明確にし、各諸室の最適な機能の提案

- ・メインアリーナは、スポーツ観戦に適したオーバル型と、音楽鑑賞に適したUの字型の特徴を合わせもったハイブリットオーバル型アリーナとすることで、高稼働アリーナを提案

○緊急車両の動線として、敷地東側の園路を活用した各公園施設への動線確保のほか、外部から直接アリーナへの大型車両やフォークリフトによる搬出入を可能とし、物流拠点施設としての転用など、災害時の円滑な機能転換が可能となる計画を提案

### ■運営・維持管理

○メインアリーナにおいては、アマチュアスポーツ大会などの一般利用を60日確保しつつ、プロスポーツや音楽興行、企業利用の開催など、公共性と収益性を両立した誘致の提案

○駐車場の管理運営について、効率的なICT等の活用と柔軟な利用料金の設定により、周辺道路の交通環境に配慮しつつ、利便性の向上にも資する提案

### ■自主事業

○民間事業者のノウハウや愛知県新体育館との連携を活用し、ネーミングライツやスポンサー収入を提案

○個人利用から法人利用まで幅広い利用者のニーズを想定し、すべての来場者が「また訪れたい」ホスピタリティサービスの提供を提案

○多様なスポーツ教室の開催など市民の「する」スポーツの促進や地域の特色を活かしたイベント開催など豊橋公園の魅力向上に資する提案

(3) 提案イメージ図

多目的屋内施設 デザインイメージ（正面）



豊橋公園東側エリア 外観イメージ



多目的屋内施設 内観イメージ（メインアリーナ：プロスポーツ）



多目的屋内施設 内観イメージ（メインアリーナ：音楽ライブ）



※提案イメージ図は提案内容の一部であり、実際の整備内容や既存の樹木、背景等とは異なる場合があります。